

バナナの葉で包んだちそうを持つ子どもたち



チノー郷の景色=1985年



サワガニや野鳥、野草がふんだんなテモキューのごちそう



伝統的な草ぶきの家=1985年

他人のための行動、当たり前



モジョ村のテモキューの祭り。神話の祖先が中にかくれて洪水をしのいだとされる太鼓をたたきます=1995年、どれも筆者提供

ユーは継続しています。多くの生活や価値観も変わりました。郷政府のテモキューは、伝統的な祭りの姿は消えかかっています。若者は町で働き、祭りの担い手がいません。人々暮らしていません。多くの生活や価値観も変わりました。郷政府のテモキューは、伝統的な祭りの姿は消えかかっています。

現在、チノーは水田を耕し、藁草などお金をかえられる作物を栽培しています。暮らしをつづけています。多くの生活や価値観も変わりました。郷政府のテモキューは、伝統的な祭りの姿は消えかかっています。若者は町で働き、祭りの担い手がいません。人々暮らしていません。多くの生活や価値観も変わりました。郷政府のテモキューは、伝統的な祭りの姿は消えかかっています。

「テモキュー」という祭りは、社会主義化が急速に進んだ50年代末に禁止されてしましました。その後、いくつかの村が、村単位の伝統的なテモキューを復活させます。起源は、神話を由来する太鼓を打ち鳴らしておどり、山や川の自然の恵み豊かなごちそうを食べました。しかし、それは続きませんでした。でした。この政策が変わり、88年にチノー郷政府のテモキューが行されました。その結果、神話を復活させます。起源は、社会主義化が急速に進んだ50年代末に禁止されてしましました。それでも、チノーは伝統的に、森外からビリヤードが入り、台を買ってお金でもうけるチノーが出てくるまで不活発でした。

伝統の祭りが危機

チノーの人々は、中国では「基諾族」と呼ばれ、55の少数民族のなかで最後に一民族として国から認められました。日本は26倍の面積と長い歴史を持つ中国には、さまざまな民族が住んでいます。政府は1950年代から言語や文化を調査し、国として民族の境界線を引く「民族識別」を始めました。その際、人口1万人に満たないチノーは、他の大きな民族の一部とされました。そのため何かしたり、物をめられたのです。

チノー語には「ありがとう」という言葉はありません。チノーは他人のためには異なる意見を持つ研究者が後に尽力し、79年に別の民族として認められたのです。

チノーは伝統的に、森分け合ったりする機会が多く、それが当たり前。お礼など恥ずかしくて言えないというのです。

ンゴ レエ マ ネ

(また来ますね)

【国立民族学博物館】大阪府吹田市にある博物館・研究所。さまざまな民族の衣服や楽器、工芸品などの資料を展示している。文献も含め収蔵資料は100万点以上。アイヌ民話人形劇「ふんだりけったりクマ神さま」が12月3日に同館で上演。



文・横山廣子
(国立民族学博物館教授)

チノー

